

# 疑問形式による 改善要求表現の日中対照

—話者と事態との関わり方から

李 国玲

## ◆要旨

**本**稿では、疑問形式による改善要求表現を【意志要求】、【可能要求】、【許可要求】の3種に分類し、話者と事態との関わり方という観点から日中対照を行い、以下のことを明らかにした。日本語では、話者は基本的に授受補助動詞の使用により、聴者に改善してほしい事態に介入し、自己中心的に事態把握を行い、聴者に働きかける。一方、中国語では、文のタイプによって、話者と事態との関わり方を記述する方法が異なる。基本的には以下の三つのタイプがある。1) 話者が聴者に改善してほしい事態に介入しない働きかけ方。2) “请、麻烦、拜托”などを用いた兼語文（一種の使役構文）で、話者が使役の主体として聴者に改善してほしい事態に介入する働きかけ方。3) 授受関係を表す“给我”を用い、話者が恩恵・利益の受け手として事態に介入する働きかけ方。

## ◆キーワード

恩恵関係、使役構文、事態、主体性、言語化

## ◆ABSTRACT

This paper is a contrastive study of “making demands” with Japanese and Chinese interrogative forms, from the viewpoint of the speaker’s cognitive ‘construal’ of a situation. This study has revealed the following.

1) In Japanese, a speaker, using benefactive auxiliary verbs, intervenes in a situation where she/he verbalizes from the speaker’s viewpoint.

2) In Chinese, there are three possible ways to verbalize the situation: 1) Asking about willingness or possibility of improving a behavior, in which case the speaker doesn’t intervene in the situation, and the listener is the subject of the sentence, 2) Using “请、麻烦、拜托” the speaker makes her/himself the subject of causative sentences, and 3) Using “给我”, the speaker inhabits the position of being the recipient of the benefits. However, the third type can also be used to show her/his anger.

## ◆KEY WORDS

benefactive constructions, causative constructions, situation, subjectivity, verbalization

Contrastive Study of “Making Demands” with Japanese and Chinese Interrogative Forms  
From the viewpoint of the speaker’s cognitive ‘construal’ of a situation  
LI GUOLING

## 1 はじめに

ある事態を言葉で表すとき、話者が事態をどう捉えるかによってさまざまな表現の可能性が生じ、言語ごとに〈好まれる言い回し〉が異なる(池上2006: 20)。例えば、「隣に住んでいる人がよく夜遅くまで大声でおしゃべりをする。相手に静かにしてほしいと思った」場面で、以下の日本語母語話者と中国語母語話者の実例を収集した。

- (1) すみません、ちょっと静かにしてもらえませんか？
- (2) 不好意思，你能稍微安静一点吗？  
すみません、あなた できる ちょっと 静かにする 疑問の語気助詞  
直訳：すみません、ちょっと静かにすることはできますか？

「静かにしてほしい」という意図を聴者に伝える際に、例(1)では、「～てもらえませんか」という表現を用いて、話者の視点から「私が～もらうことは可能か」という形で聴者に働きかける。一方、例(2)では、聴者を主語として焦点化し、“你能～吗？(あなたが～することは可能か)”という形で聴者の改善行為を行う可能性を尋ねている。例(2)は中国語の例文としてとても丁寧な言い方であるが、逐語的に日本語に訳すと、語用論的に違和感を感じるのはなぜだろうか。

## 2 先行研究

現状に不満や不快感を感じている話者が、その状況を変えることができる立場の聴者に意見を述べることを「改善要求」という(山岡・牧原・小野2010: 221)。①話者が聴者に何らかの行動を行うよう求める、②その行動が実現されれば話者に利益がある、③当該行為の実行の決定権は聴者にあるという3つの点で「依頼」と共通しているため、本稿では、「改善要求表現」を「依頼表現」の一種と考えて、以下のように定義する。

現状に不満や不快感を感じている話者が、その好ましくない状況を引き起こした当事者の聴者に何らかの改善行為を行うように頼む行為である。

従来、依頼表現(本稿で扱う改善要求表現を含めたもの)の日中対照については、様々な視点から研究がなされている(林1982, 木村1987, 馬場・盧1992, 浜田1995, 安本2009, 盧2011など)。その内、表現形式の細部にわたって詳しく見比べたものには、相原(2008)がある。相原(2008: 4-5)は、両言語の依頼表現を直接的か、間接的かという視点から二つのタイプに分類し、それぞれ「直接依頼文」、「間接依頼文」と名づけている。さらに、日本語の間接依頼文については、「疑問文(肯定疑問文と否定疑問文に分けている)」と「願望叙述などの言いさし表現」に分けている。一方、中国語の間接依頼文を「末尾に“価値判断のモダリティ形式+吗”をつける疑問文」、「“可能の助動詞+VP+吗”型の疑問文」、「“可能の助動詞+否定+可能の助動詞+VP”型の疑問文」に分けている。上述した分類法に基づき、相原(2008)はさらに親疎関係によって各表現形式の出現率を見比べたが、疑問形式による間接依頼文の下位分類は日中両言語が違う基準(日本語は肯定・否定の基準で疑問文を分類しているのに対して、中国語は構成要素によって3種類に分けているが、はっきりした分類基準が見られない)で分類されているため、同一行為を表す際に、両言語がどのように対応しているかは分からない。疑問形式による依頼表現の日中対照については、両言語の分類基準を統一し、さらに検討する必要があると思われる。

そこで、本稿では、依頼表現の対照研究の一環として、現状に不満を感じた話者が、疑問形式によって相手に改善要求を行う際の日中両言語の相違点を分析する。なお、説明中の用例は主に作例を用いる。

## 3 疑問形式による改善要求表現

### 3.1 日本語における疑問形式による改善要求表現

山岡・牧原・小野(2010)によると、疑問形式による改善要求表現は、さらに【意志要求】、【可能要求】、【許可要求】の3種に分類できる。

【意志要求】：話者の「改善要求」に対し、聴者が「協力」する意志があるかどうかを尋ねるものである。

- (3) a. 静かにしてくれる／くれますか／くださいますか？  
b. 静かにしてくれない／くれませんか／くださいませんか？

(3) a, bでは、授受補助動詞「テクレル」を用いることにより、話者自身が受益者であることを明示している。話者は恩恵・利益の受け手として、「(聴者が) 静かにする」という事態の中に話者自身を置き(以下介在とする)、自分の改善要求に対し、聴者が応じるかどうかを尋ねている。

【可能要求】：聴者が改善行為を行う可能性があるかどうかを尋ねるものである。

- (4) a. 静かにしてもらえる／もらえますか／いただけますか？  
b. 静かにしてもらえない／もらえませんか／いただけませんか？

(4) a, bでは、授受補助動詞「テモラウ」の可能形「テモラエル」を用いることにより、話者は恩恵の受益者である主体として、主体の視点で聴者(=格)が動作主である(「(聴者が) 静かにする」という事態を言語化し、聴者に働きかけている。

また、(4) a, bから恩恵授受関係を表す要素を取り去り、話者が事態に介在しない可能要求表現「静かにできますか／できませんか？」などもある。これらの表現は構文上改善要求表現としては成り立つが、丁寧さの関係で限られた場面でしか用いられないだろう。

【許可要求】：改善要求行為を行っても良いかを尋ねるものである。

- (5) 静かにしてもらってもいいですか／いただいてもいいですか？

(5) では、授受補助動詞「テモラウ」の許可要求形「テモラッテモイイデスカ」を用いることにより、話者は使役の主体かつ利益・恩恵の受け手として、「(聴者が) 静かにする」という事態に介在し、自分の要求行為の妥当性を尋ね

る形で、聴者に改善行為を行うよう求めている。

## 3.2 中国語における疑問形式による改善要求表現

日本語の分類基準に基づき、中国語における疑問形式による改善要求表現を以下のように分類する。

【意志要求】：聴者に改善行為を行う意志があるかどうかを尋ねる表現は以下の4つのタイプがある。

- (6) 小点声, 好/行吗?  
直訳: (あなたは) 静かにする。いいね?  
(7) 请你小点声, 好/行吗?  
直訳: (私は) あなたが静かにすることを願う。いいね?  
(8) 给我小点声, 好/行吗?  
直訳: 静かにしてくれ、いいね?  
(9) 请你给我小点声, 好/行吗?  
直訳: (私は) あなたが私のために静かにすることを願う。いいね?

(6) は命令形表現“小点声(静かにする)”+“好吗/行吗?(いいね?)”という形で、話者は「(聴者が) 静かにする」という事態をあくまでも傍観者の立場で言語化し、即ち事態に介在せず、聴者に働きかけている。

(6) の文頭に“请、麻烦、拜托(願う、頼む)”など敬意を表す表現を付け加え、表現形式を丁寧化した(7) のような言い方もよく用いられる。一種の使役構文で、話者が使役の主体として「(聴者が) 静かにする」という事態に自己を介在させる働きかけ方である。中国語の“请、麻烦、拜托”が、相手にある動作をするように働きかけるという使役の意味は有するが、日本語の「~テモラウ」構文と違って恩恵関係を表面に出さないため、このタイプの意志要求は話者が事態に介在するが、恩恵授受関係を明示していない。

(8) と(9) はいずれも、話者が怒りなど不満を伝える際に用いる表現形式である。“给我”は、本来「他人から恩恵・利益を受ける」という意味を表す表現であるが、ここでは皮肉的な用法で、話者は故意に恩恵・利益の受け手と

して、「(聴者が) 静かにする」という事態に自己を介在させ、不満の感情を強く聴者に伝えている。「给我」で自分の意志を強く相手に押し付けた上に、「请」でさらに相手との心理的距離を広げる(9)のような例文は、丁寧さを伴わない表現である。

【可能要求】:【意志要求】と同様に、聴者の改善行為を行う可能性があるかどうかを尋ねる表現も4つのタイプがある。

(10) 你能小点声吗? / 你能不能小点声?

直訳: (あなたは) 静かにできますか / できませんか?

(11) 麻烦你能小点声吗? / 麻烦你能不能小点声?

直訳: 頼むから、(あなたは) 静かにできますか / できませんか?

(12) 你能给我小点声吗? / 你能不能给我小点声?

直訳: (あなたは) 私のために静かにできますか / できませんか?

(13) 麻烦你能给我小点声吗? / 麻烦你能不能给我小点声?

直訳: 頼むから、(あなたは) 私のために静かにできますか / できませんか?

(10) は「あなたは～できますか」という形で、聴者が主体となっており、話者は「(聴者が) 静かにする」という事態に介在していない。

また、(10) の文頭に「麻烦、拜托 (お願いする、頼む)」など敬意を表す表現を付け加え、表現形式を丁寧化した(11) のような言い方もよく用いられる。使役構文という構文上の工夫により、話者が使役の主体として「(聴者が) 静かにする」という事態に自己を介在させる働きかけ方である。

(10) と(11) に恩恵関係を表す表現“给我”を付け加え、(12) と(13) のように、話者が恩恵・利益の受け手として、「(聴者が) 静かにする」という事態に自己を介在させ、聴者に働きかけることもできるが、そこに用いられる“给我”が皮肉的な用法であるため、これらのタイプの可能要求表現も意志要求と同様、丁寧さを伴わない表現である。

【許可要求】: 改善要求を行っても良いかを尋ねる表現は2つのタイプがある。

(14) 能不能麻烦你小点声?

直訳: (私は) あなたが静かにすることをお願いできますか?

(15) 能不能麻烦你给我小点声?

直訳: (私は) あなたが私のために静かにすることをお願いできますか?

(14) は一種の使役構文で話者が使役の主体となっており、「(聴者が) 静かにする」という事態に自己を介在させ、話者が改善要求行為を行っても良いかを聴者に尋ねている。(14) に“给我”を付け加え、恩恵関係を明示した(15) のような働きかけ方もあるが、丁寧さを伴わない表現である。

### 3.3 疑問形式による改善要求表現の日中文字型対照

3.1 節と3.2 節の考察結果に基づき、疑問形式による改善要求表現の日中対照を表1に示す。

表1 疑問形式による改善要求表現の日中対照

分類	日本語		中国語	
	文型	話者と事態との関わり方	文型	話者と事態との関わり方
意志要求	~てくれる? ~てくれますか? ~てくださいますか? ~てくれない? ~てくれませんか? ~てくださいませんか?	話者は恩恵・利益の受け手として事態に介在	～, 好/行吗?	話者は事態に介在せず
			请你～, 好/行吗? 麻烦你～, 好/行吗? 拜托你～, 好/行吗?	話者は使役の主体として事態に介在
			给我～, 好/行吗?	話者は恩恵・利益の受け手として事態に介在
			请你给我～, 好/行吗? 麻烦你给我～, 好/行吗? 拜托你给我～, 好/行吗?	話者は使役の主体かつ恩恵・利益の受け手として事態に介在
可能要求	(本動詞の可能形) ～できますか? ～できませんか?	話者は事態に介在せず	你能～吗? 你能不能～?	話者は事態に介在せず
			麻烦你能～吗? 麻烦你能不能～? 拜托你能～吗? 拜托你能不能～?	話者は使役の主体として事態に介在
	~てもらえる? ~てもらえますか? ~ていただけますか? ~てもらえない? ~てもらえませんか? ~ていただけませんか?	話者は使役の主体かつ恩恵・利益の受け手として事態に介在	你能给我～吗? 你能不能给我～?	話者は恩恵・利益の受け手として事態に介在
			麻烦你能给我～吗? 麻烦你能不能给我～? 拜托你能给我～吗? 拜托你能不能给我～?	話者は使役の主体かつ恩恵・利益の受け手として事態に介在
許可要求	~てもらってもいいですか? ~ていただいてもいいですか?	話者は使役の主体かつ恩恵・利益の受け手として事態に介在	能不能拜托你～? 能不能麻烦你～?	話者は使役の主体として事態に介在
			能不能拜托你给我～? 能不能麻烦你给我～?	話者は使役の主体かつ恩恵・利益の受け手として事態に介在

## 4 まとめ

本稿では、話者と事態との関わり方という観点から疑問形式による改善要求表現の日中対照を行い、以下のことが明らかとなった。

日本語では、話者は基本的に授受補助動詞の使用により、聴者に改善してほしい事態に介在し、自己中心的に事態把握を行い、聴者に働きかける。一方、中国語では、文のタイプによって、話者と事態との関わり方を記述する方法が異なる。基本的には以下の三つのタイプがある。

- 1) 話者が聴者に改善してほしい事態に介在せず、客観的に聴者の改善行為を行う意志・可能性を問う形で聴者に働きかける。
- 2) “请、麻烦、拜托”などを用いた兼語文（一種の使役構文）で、話者が使役の主体として聴者に改善してほしい事態に介在する働きかけ方である。
- 3) 授受関係を表す“给我”を用いることにより、話者が恩恵・利益の受け手として事態に介在する働きかけ方があるが、これは怒りなど不満を伝える際に用いる丁寧さを伴わない表現である。

〈筑波大学大学院生〉

### [付記]

本稿は2013年9月29日に学習院女子大学で行われた、第5回日本語／日本語教育研究会において口頭発表した内容に加筆修正を加えたものである。発表に際し貴重なご意見をくださった方々に対して心より感謝申し上げます。また、本稿の執筆に際し、筑波大学人文社会系の小野正樹先生から貴重なご指導とご助言をいただきました。ここに記して感謝いたします。

## 参考文献

- 相原まり子 (2008) 「依頼表現の日中対照研究—相手に応じた表現選択」『言語情報学』6, pp.1-18.
- 池上嘉彦 (2006) 「〈主観的把握〉とは何か—日本語話者における〈好まれる言い回し〉」『言語』35(5), pp.20-27.
- 木村英樹 (1987) 「依頼表現の日中対照」『日本語学』6(10), pp.58-66.
- 浜田麻里 (1995) 「依頼表現の対照研究—中国語における命令依頼の方略」『日本語学』14(10), pp.69-75.
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現 日本語語用論入門』明治書院
- 林淑珠 (1982) 「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較—丁寧度の観点から」『国語学研究』22, pp.60-72.
- 馬場俊臣・盧春蓮 (1992) 「日中依頼表現の比較対照」『北海道教育大学紀要』第一部A, 人文科学編, pp.57-66.
- 安本真弓 (2009) 「依頼表現スタイルの日中対照研究—映画・テレビ・現代劇のシナリオから」『野州国文学』82, pp.1-17.
- 盧万才 (2011) 「中国人日本語学習者の依頼表現習得状況の考察」『麗澤大学紀要』92, pp.185-206.